

施策評価シート（平成25年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	2-2	政策名	生活基盤の充実	政策の 目指す姿	生活に必要な基盤が整い、 快適に暮らしています	施策 主管課	都市政策課	施策主管 課長名	石崎 伸也
	施策No.	2	施策名	公共交通の確保	施策の 目指す姿	公共交通が利用しやすくなっ ています	関係課名			
	現状と課題	<p>・利用者数の大幅な減少より、民間及び市自主運行バス路線り廃止や減便が増加し、利便性の低下が進行しています。</p> <p>・本市では、予約に応じて運行する予約応答型乗合交通や市街地循環バスを運行してきましたが、徐々にその利用しやすさが浸透し、他の地域からも運行の要望があります。</p> <p>・花巻空港の航路や便数を増やすなど、その利便性を高めるためには、利用者の増加が課題となっています。</p>								

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取り組み実績

- (1)利便性の高い公共交通の確保
- 市営バス、市街地循環バス等の自主運行バスの運行
 - 交通広場等の適正な管理
 - ・花巻駅・新花巻駅・花巻空港駅・石鳥谷駅の駅前広場、駐車場、駐輪場等の管理
- (2)航空便の利用促進
- 航空便の増便に向けた関係機関への要望活動
 - 空港利用促進のためのPR強化
 - ・岩手県空港利用促進協議会等関係団体の活動への支援、協力

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値 区分	H23	H24	H25 (基準年度)	H26	H27	H28
公共バス(市運営、民間運営)の利便性に満足している市民の割合	市民の身近な公共交通であるバス(民間運営、市運営)の利便性満足度を示す指標	市民アンケート測定 「普段の生活の中で利用する下記項目の基盤整備状況に満足していますか？」④公共バス(民間路線バス、ふくろう号、デマンドタクシー等) (1)満足、(2)どちらかといえば満足、(3)どちらともいえない、(4)どちらかといえば不満、(5)不満 (1)、(2)選択数をカウントし、満足度を測定 ※分からない、無回答はバス利用者・利用希望者とみなさず分母に含めない	%	目標値				50.0	50.0	50.0
				実績値	—	48.1	33.5			
花巻空港年間利用者数	空港の利用状況を示す指標	出典:秘書政策課 利用者数＝国内便4便(大阪、小牧、札幌、福岡)の搭乗者数＋チャーター便利用者数の合計	人	目標値				404,000	404,000	404,000
				実績値	302,548	334,316	382,446			
				目標値						
				実績値						

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地循環バスや石鳥谷・東和地域のデマンドタクシーは定着してきている。 ・空港利用については、利用者数・チャーター便を含む便数ともに前年度より増加した。

4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名	担当課	施策への貢献度	貢献度の判断理由
	事業内容(実績)			
1	空港利用促進事業	都市政策課	A	定期便、チャーター便の利用者及び便数の増加につながった。
	岩手県空港利用促進協議会等の活動(利用促進、就航先都市でのPR)の支援、協力			
2-1	公共交通確保対策事業	都市政策課	A	民間バス路線廃止地域等において自主運行バスを運行することにより公共交通を確保した。
	市営バス・大迫公共施設連絡バス運行委託、市街地循環バス・大迫花巻連絡バス・中部病院連絡バス・デマンドタクシー運行補助			
2-2	公共交通確保対策事業	都市政策課	A	民間バス路線の存続を図った。
	民間路線バス運行補助			
3	都市施設機能改善事業	都市政策課	A	花巻駅等の利用者の利便を図った。
	駅前広場・駐車場・駐輪場等の管理、放置自転車整理			

5 施策を構成する事務事業の検証

(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)

(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)

(新たに取り組むべき事業はないか)

6 施策の総合的な評価

(課題)

- ・バスやデマンドタクシーの利用者は増加しておらず、デマンドタクシーの利用方法(前日予約制)改善の検討が必要。
- ・中心市街地整備に合わせた市街地循環バスのルートの検討、増便・複数路線化の検討が必要。
- ・空港利用者が低下すると航空便の減便あるいは休止が懸念されるため、継続した利用促進活動が必要。
- ・羽田便については、競合する新幹線に対する優位性が見出しにくい状況になってきている。

(今後の方向性)

- ・民間路線バスの廃止を見据えたデマンドタクシーの拡大と利用しやすい方法の検討。
- ・市街地循環バスの充実(増便や2ルート化など)の検討。
- ・空港の観光利用の増加や国際定期便の実現に向け、県南広域観光ルートの検討やアウトバウンド増加のための県民に対するPR(岩手県空港利用促進協議会や観光サイドとの連携)。
- ・羽田を国内各地へ渡航する際のハブ空港として捉える等、羽田便実現に向けた調査検討。